



TITLE:

# 多体問題研究会(第3回)の報告

AUTHOR(S):

---

CITATION:

多体問題研究会(第3回)の報告. 物性研究 1968, 10(5): E1-E3

ISSUE DATE:

1968-08-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/86732>

RIGHT:

## 多体問題研究会（第3回）の報告

事務担当世話人 宗 田 敏 雄

今回は世話人，伊豆山健夫，岩本文明，沢田克郎，宗田敏雄，高野文彦，長岡洋介，真木和美，和田靖（アイウエオ順）の各氏によって企画され，今年度5月27日より29日までの3日間にわたり，京都大学基研で“Non-Linearity and Fluctuation”と云う主テーマで開かれた。関西外からの参加者は20名で京都，大阪在任者は20～28名の参加者を得て，総勢40～48名の規模であつた。

極めて広範囲にわたる諸問題，諸分野を取り上げ，次に述べる様なプログラムで，講義，研究発表，討論の形で行われた。

### 5月27日（月）第1日

- |             |       |  |
|-------------|-------|--|
| 10.00～12.00 | 真木和美氏 | 講義“超伝導体に於ける秩序度の fluctuation - type I 超伝導体”                 |
| 13.30～15.00 | 同上    | “ - type II 超伝導体と He II と超伝導に於ける解明された点と未解決の問題点”並びに講義に対する討論 |
| 15.30～16.15 | 西山敏之氏 | 研究発表“Bose 気体の相転移”  |
| 16.15～17.30 | 三沢節夫氏 | “ Fermi 粒子系に於ける一つの非線型”                                     |

### 5月28日（火）第2日

- |             |        |   |
|-------------|--------|---|
| 9.30～12.00  | 伊豆山健夫氏 | 講義“Ferromagnetic Fermi Liquid”                    |
| 13.30～15.00 | 久保亮五氏  | 特別講義“Fluctuation-Dissipation 定理についての remarks”     |
| 15.30～17.00 | 川崎辰夫氏  | 講義“Non-Linearity and Fluctuation in Laser Action” |

宗田敏雄

5月29日(水) 第3日

- 9.30~10.00 伊豆山健夫氏 “Ferromagnetic Fermi Liquid  
における解明された点と未解決の問題  
点” と彼の講義に対する討論
- 10.00~12.00 西川恭治氏 講義 “Non-Linearity and Fluctuation in Plasma”
- 13.30~14.30 同 上 と講義に対する討論
- 14.30~15.00 松原武生氏 研究発表 “Mobility of Impurity  
conduction”
- 15.00~15.45 和田 靖氏 研究発表 “Hall 効果の話”

全3日間を通して、世話人の代表である沢田克郎氏が座長を行った。事務担当の方としては、各講義を出来るだけ、そのまま物性研究に再現したくお願いをしたが、西川恭治氏御多忙の為、アブストラクトに近い形でしか再現出来ないことは残念であった。以下に講義ノートに掲載してあるが、研究発表の方も話の大体の内容をまとめて頂いたので収録した。研究会の模様を生々と描写する為に各日の感想印象記を講義ノートや、研究発表のアブストラクトの後にはさんだ。お願いした方は

第1日午後の感想 和田 靖氏

第2日目の感想 阿部 竜蔵氏

第3日目の感想 高野 文彦氏

であるので、ここに感謝の意を表します。また、久保先生の特別講義は、世話人の方から特別にお願いをしたものですが、物性研究の同先生の講義や、スコットランド・サマースクールの講義ノートや、日米低温セミナーのプロシーディングに現われており、人口に膾炙(かいしや)しているので割愛させていただきます。

この研究会は広範囲に渡る問題の review と、解明された点や未解決の問題点の整理がなされ、これらについての討論が大に行われ、通常狭いテーマに閉じこもりがちな研究者に大きい窓口を開けた効果があった様に思う。今回の多体問題研究会のあり方には、予算審議の時かなり批判があったが、

予算のきまった後、世話人全員が集って協議をし、公回のテーマにしぼったのと、各講義の講師に秀れた研究者であり、明晰な reviewer の招待を決め、それに成功したので、研究会としてはかなり有意義であったと思う。多体問題の研究会は長期的効果を目ざしており、参加者に広い範囲の共通の問題点提期や、新しい領域を開拓する刺激を与え、現代までに解っていることや、未解決な点を明らかにして、中堅研究者層に、良き研究会とも勉強会になったと思う。